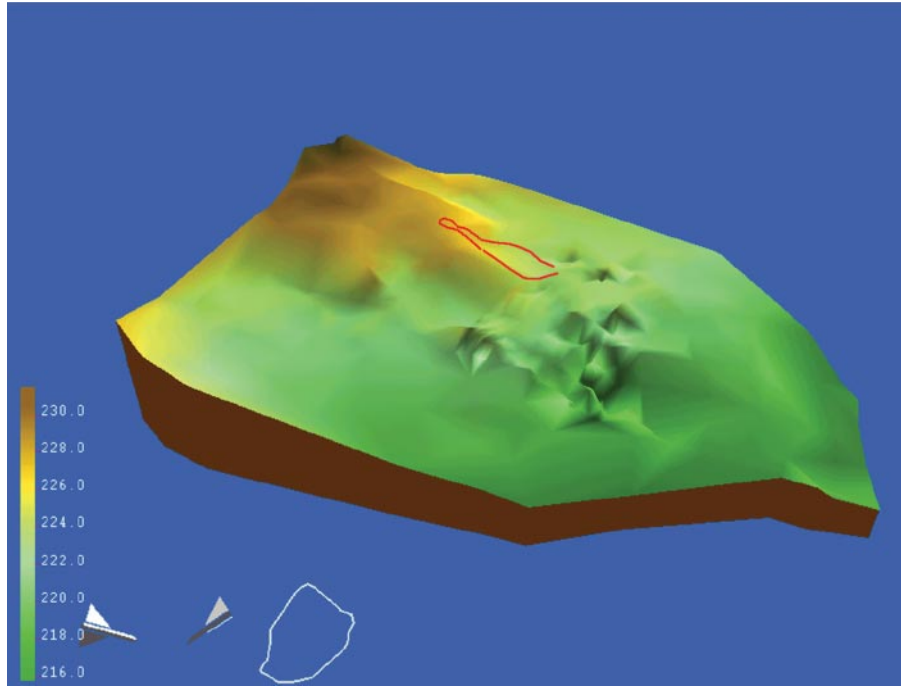


愛知県瀬戸市上品野町

中洞窯跡現地説明会資料

平成 13 年 10 月 21 日 (日) 13:30 ~



(財)愛知県教育サービスセンター
愛知県埋蔵文化財センター
<http://www.maibun.com>

はじめに

この度、^{なかぼらかまあと}中洞窯跡の現地説明会を開催することになりました。

この調査は東海環状自動車道に伴う事前調査として、財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センターが、日本道路公団から愛知県教育委員会を通じて委託を受けて実施したものであります。調査は、中洞窯跡1,200㎡をA・Bの2調査区に分け、平成13年7月23日から開始しており、終了は10月末の予定です。なお、今回の調査は、株式会社^{しもん}四門の支援を受けながら行っております。

立地と環境

中洞窯跡は、水野川の支流である中洞川の右岸、標高約220mの丘陵上に立地します。この瀬戸市上品野町には、分布調査および発掘調査により、窯跡を中心として、遺跡が多く点在していることが知られています。

^{こうききゅうせきじだい}後期旧石器時代から^{じょうもんじだい}縄文時代では、^{だいけいようせき}台形様石器をはじめとする後期旧石器時代(約3万年前)の石器群が出土した^{かみしなの}上品野遺跡(20)、^{そうそうき}縄文草創期(約1万年前)の^{ゆうぜつせんとうき}有舌尖頭器など縄文時代の遺物がまとまって出土した^{しなのにし}品野西遺跡、^{かみしなの}上品野^{かにかわ}蟹川遺跡(21)でも、縄文時代の遺物の出土が知られています。

窯跡には、室町時代から戦国時代に操業されたものとして、^う宇トゲ窯跡(2)・^{にし}西窯跡(3)・^{くわた}桑下窯跡(5)・^{くわたひがし}桑下東窯跡(6)・^{かみしなの}上品野A窯跡(14)などが知られています。宇トゲ窯跡の調査は、今回の中洞窯跡の調査に前後して行われ、^{はいばら}灰原の末端部および^{くわ}竪穴状の遺構が検出されました。

それ以外では、^{しなのじょう}品野城跡・^{くわたじょう}桑下城跡など、中世の山城が知られています。特に品野城は当地域の中心的な山城であったようです。

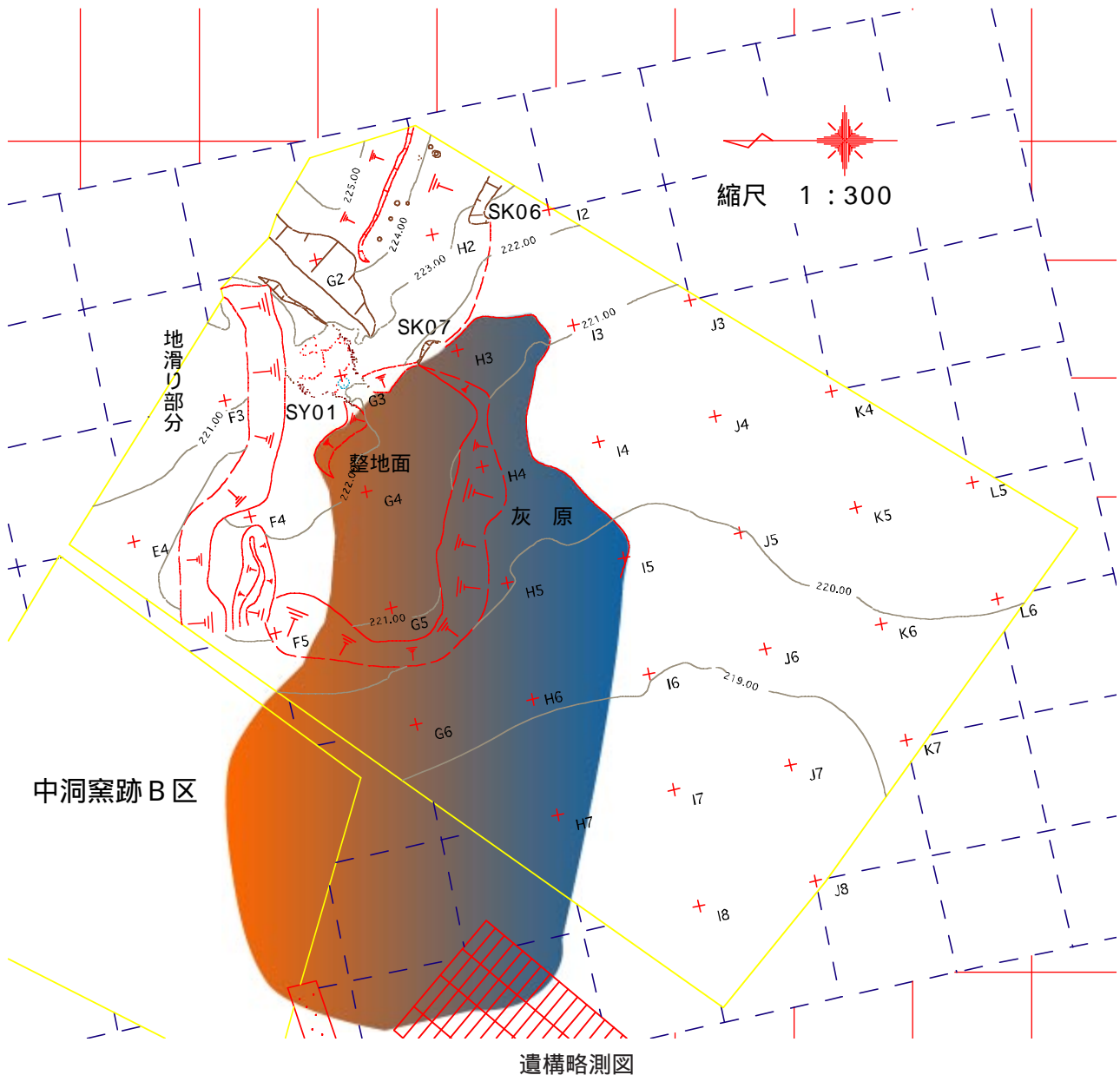
中洞遺跡と周辺遺跡



番号	遺跡名	時期	概要	11	19	磁器 窯体消滅?
1	中洞窯跡	13~14	施釉陶器・山茶碗など 窯体上部が地滑り	11	19	
2	宇トゲ窯跡	14~15	施釉陶器・片口鉢など 作業施設	12	19	
3	西窯跡	16	施釉陶器 灰原の一部残存	13	中世	
4	桑下城跡	中世	土塁・曲輪跡	14	15	施釉陶器・山茶碗など 灰原
5	桑下窯跡	15	施釉陶器 灰原の一部残存	15	19	磁器
6	桑下東窯跡	16	灰原	16	19	磁器
7	上品野桑下B遺跡	中世~近世	施釉陶器・山茶碗など	17	19	磁器
8	上品野桑下A遺跡	中世~近世	施釉陶器・山茶碗など	18	19	磁器
9	上品野西金地遺跡	中世~近世	施釉陶器・山茶碗など	19	中洞遺跡	縄文~中世
10	上品野東山遺跡	中世~近世	施釉陶器・山茶碗など	20	上品野遺跡	後期旧石器 ~中世
				21	上品野蟹川遺跡	約3万年前後期旧石器の石器群 古墳時代、古代、中世の遺構群
						平安時代・近世の遺構 縄文時代~中世の遺物

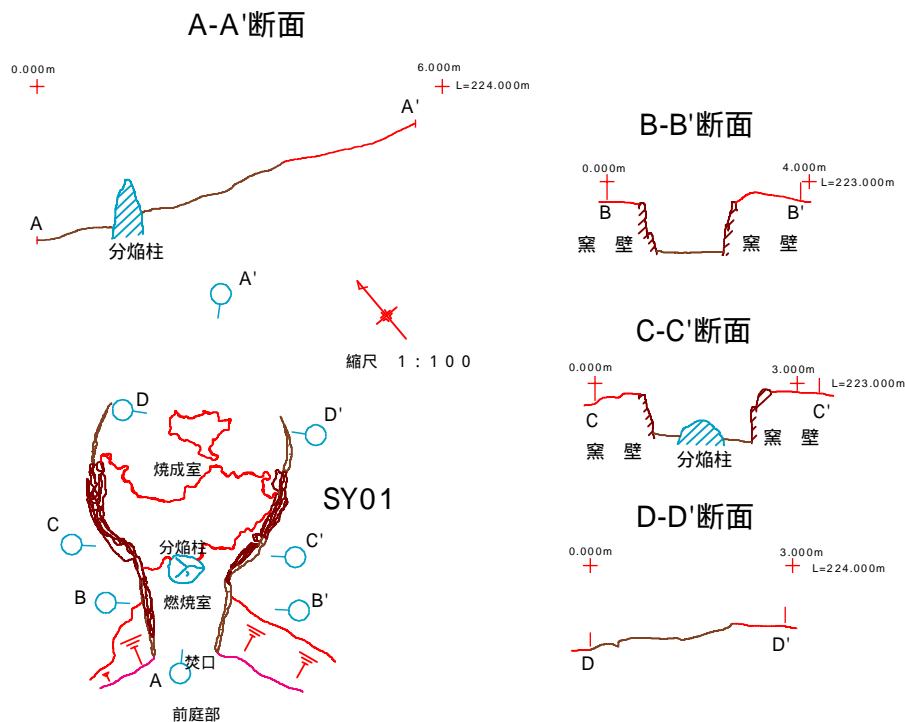
中洞窯について

遺跡全体は中洞川の堰堤建設時にかなりの破壊を受けていたものの、調査によって、遺跡が南西方向に開口する谷地形の斜面に立地していることが明らかになりました。確認された遺構は、窯跡 1 基・整地部分(作業空間)・土坑数基・灰原です。操業の時期は古瀬戸中期 II 段階から古瀬戸中期 III 段階までと考えられます。窯跡は谷地形方向の北東-南西方向に作られています。整地部分は焚口から前庭部にかけてに見られ、ここが窯操業に伴う作業空間であったようです。灰原は、前庭部から南西方向の中洞川に向かった傾斜地に形成され、不良品が多量に出土しています。



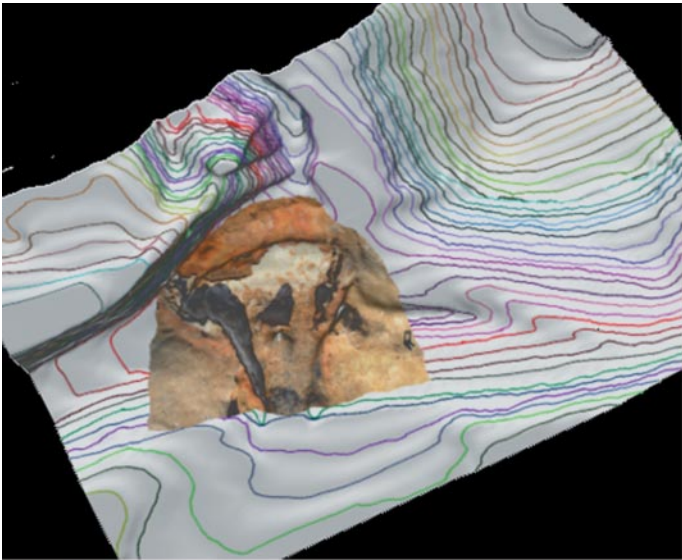
地滑りにより破壊を受けた窯体

窯跡は燃焼室から焼成室にかけてのみが確認され、全長のおよそ2分の1が残存しています。残存部での全長は約3.5m、最大幅は焼成室で約2.5m、最深部は分焰柱部分で約80cmです。現地説明会終了後に断ち割りを行います。現況でも窯壁には元来の壁であった部分の上に最低2回の補修が行われた様子が見られます。窯跡は地滑りにより大きく破壊を受けています。地滑りの成因としては、大地震や集中豪雨などによる地盤の緩みと考えられます。調査では、地滑りは西方向に崩落し大きく陥没した状態で見つかりました。

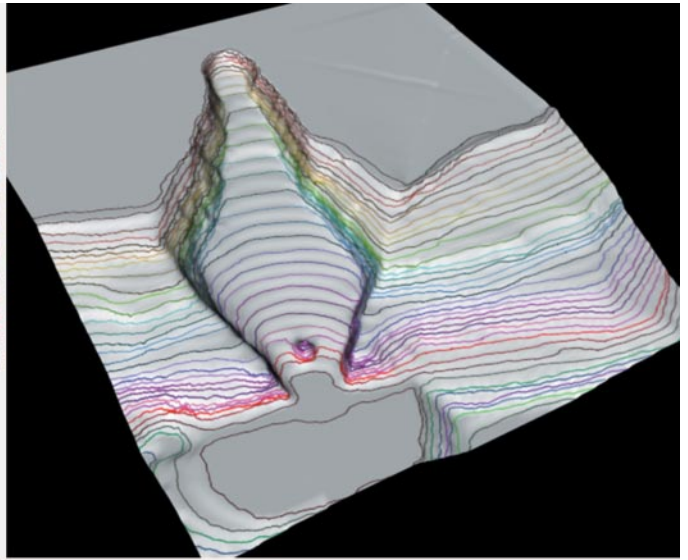


窯体実測図

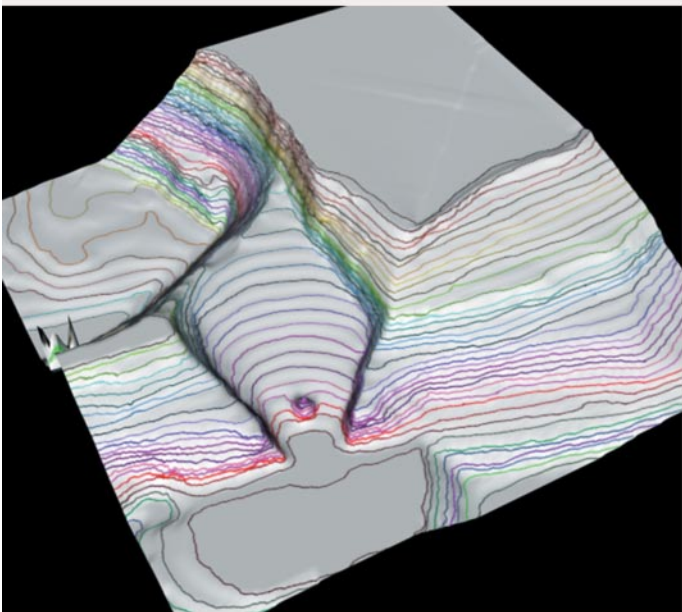
中洞窯跡の変遷



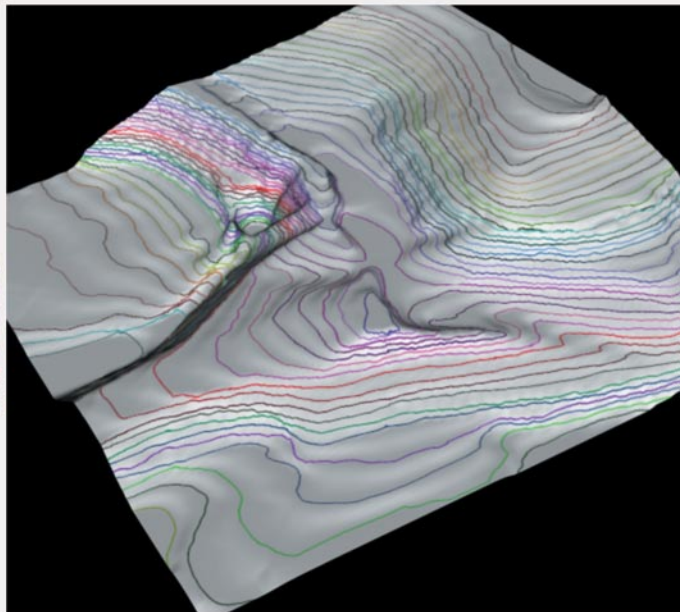
発掘データ



中洞窯跡造営時



崩落時



道路開鑿^{かいさく}時

出土遺物

古瀬戸と呼ばれる施釉陶器と山茶碗と呼ばれる無釉陶器との両者が生産されていたようです。古瀬戸では碗・天目茶碗・折縁深皿・卸皿・柄付片口・花瓶・四耳壺・瓶子・水注などの器形が、山茶碗系では碗・小皿が見られます。その他、匣鉢・陶丸なども出土しています。四耳壺・瓶子・水注・花瓶を中心として、胴部に印花文と呼ばれる草花などの文様がつけられているものがあり、文様に華やかさが見られるのも、この時期の特徴です。



出土遺物

